

# アットウシ〈鞆皮衣または樹皮衣〉\*

\*アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られており、鞆皮衣や樹皮衣ともよばれます。

# C0202

北海道／日本

## アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



### 参照資料

『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『アコロイタク』



アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られています。本州以南で見られる麻、シナ（紵）の布に似ています。筒そでの着物で、おくみ（左右を合わせるところ）がありません。また、労働する時は帯でしめます。

女性の場合は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織ります。

このアットウシは平成22年に作家の貝澤雪子さんが北海道の二風谷で、製作したものです。縞模様はタテ糸の数本ごとにクルミの染料で染めた樹皮糸を入れて織られています。

### 佐々木先生からのひとこと

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「シ」のように小さく表記し、読むときは軽く発音します。くわしくは『アコロイタク』を見てみましょう。

アットウシは水や風にも強いので、本州でも漁師などが使用していました。